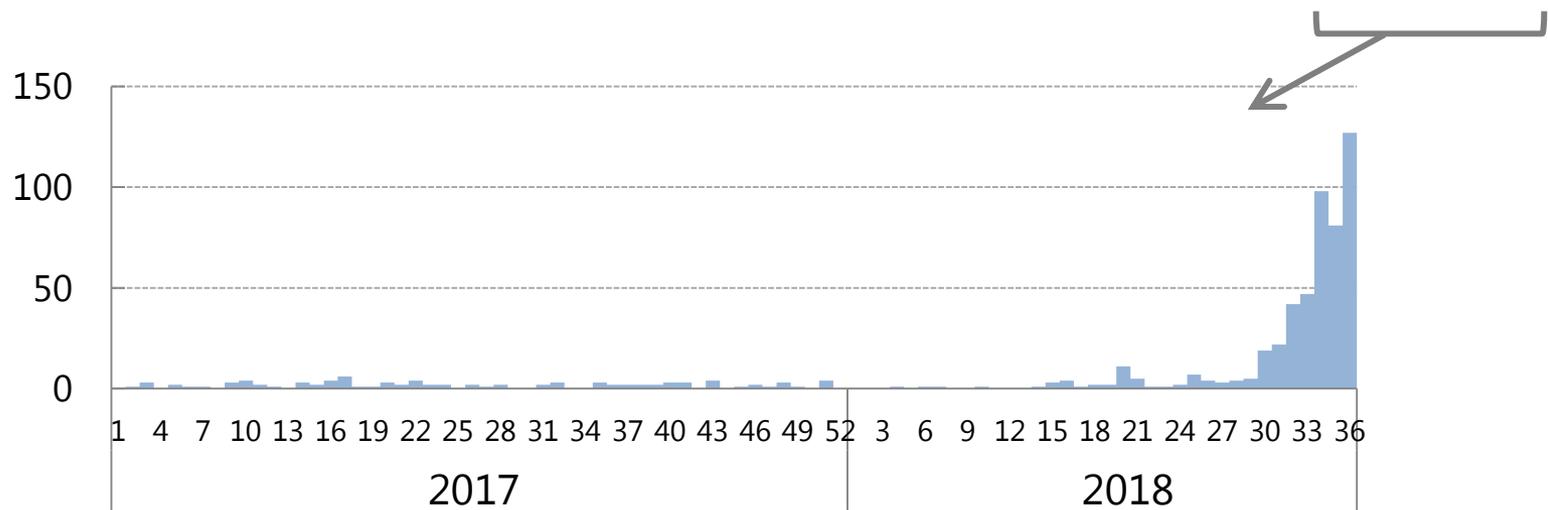
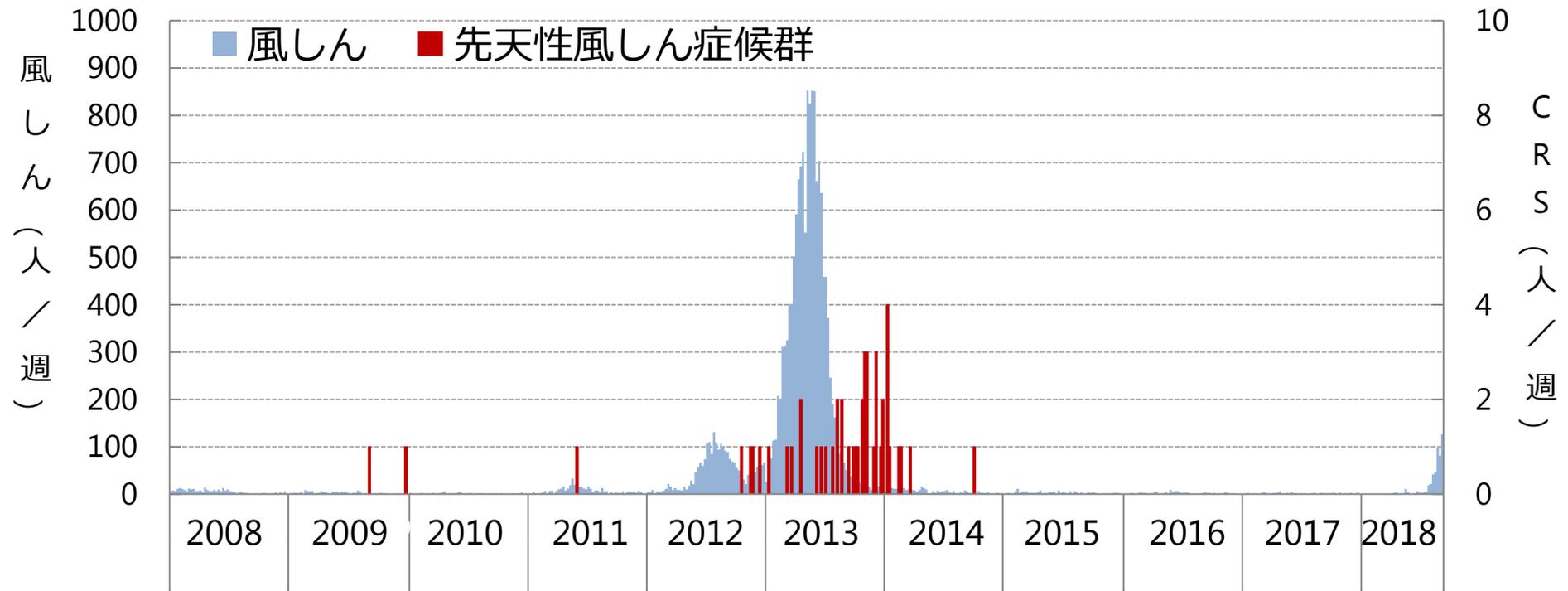


風しん・先天性風しん症候群の 発生状況について

2018.9.19

岐阜県保健環境研究所

◆ 風しん・先天性風しん症候群（CRS） 患者報告数推移（全国）

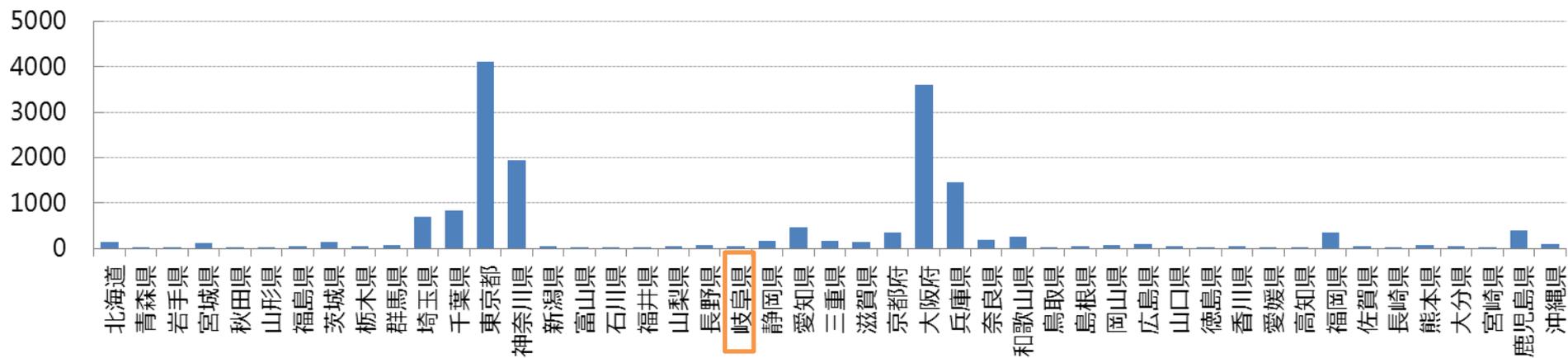


◆ 風しん・先天性風しん症候群 患者報告数（全国・岐阜県）

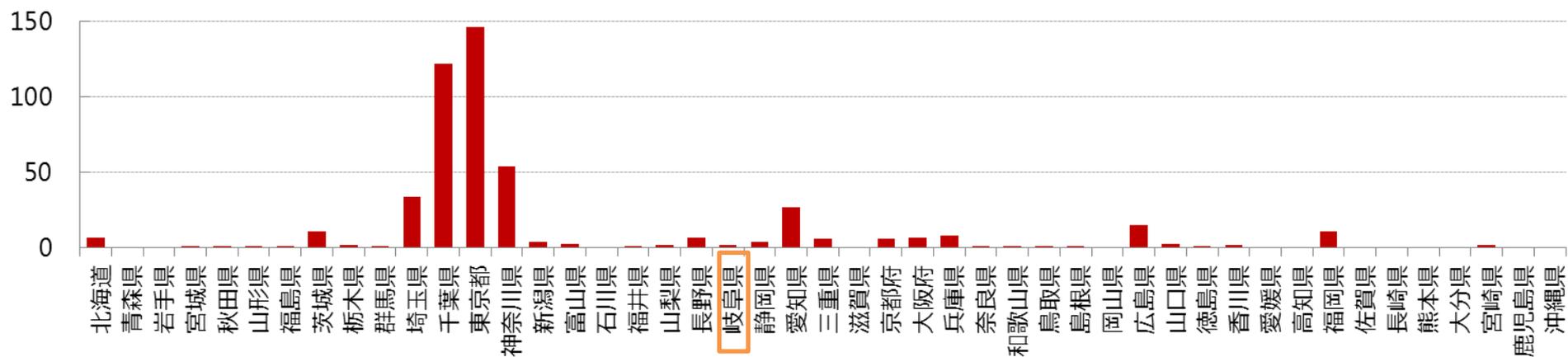
年	風しん		先天性風しん症候群	
	全国	岐阜県	全国	岐阜県
2008	294	1	0	0
2009	147	2	2	0
2010	87	2	0	0
2011	378	3	1	0
2012	2,386	10	4	0
2013	14,344	31	32	0
2014	319	2	9	0
2015	163	1	0	0
2016	126	3	0	0
2017	93	1	0	0
2018 1～36週	496	2	0	0

◆ 都道府県別 風しん患者報告数

2012～2013年

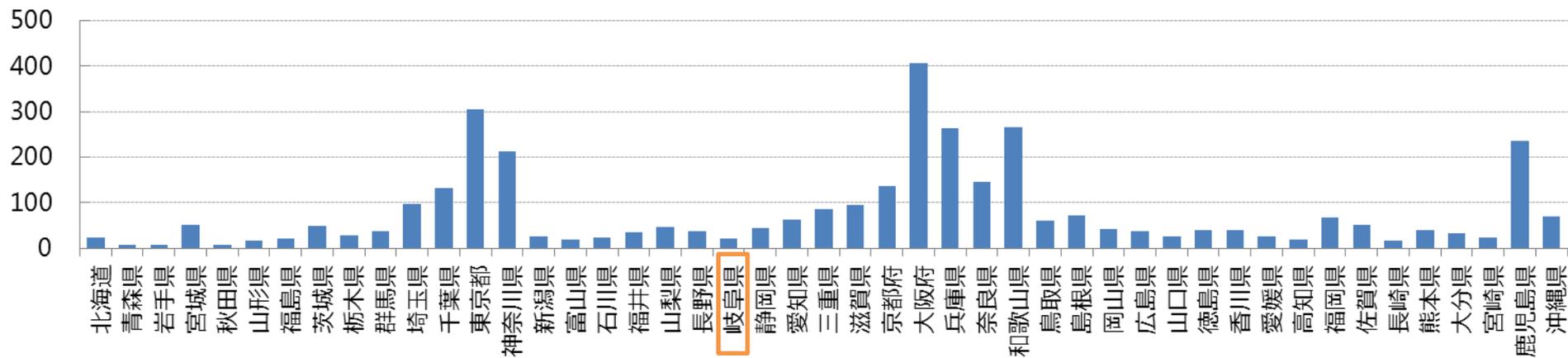


2018年1～36週

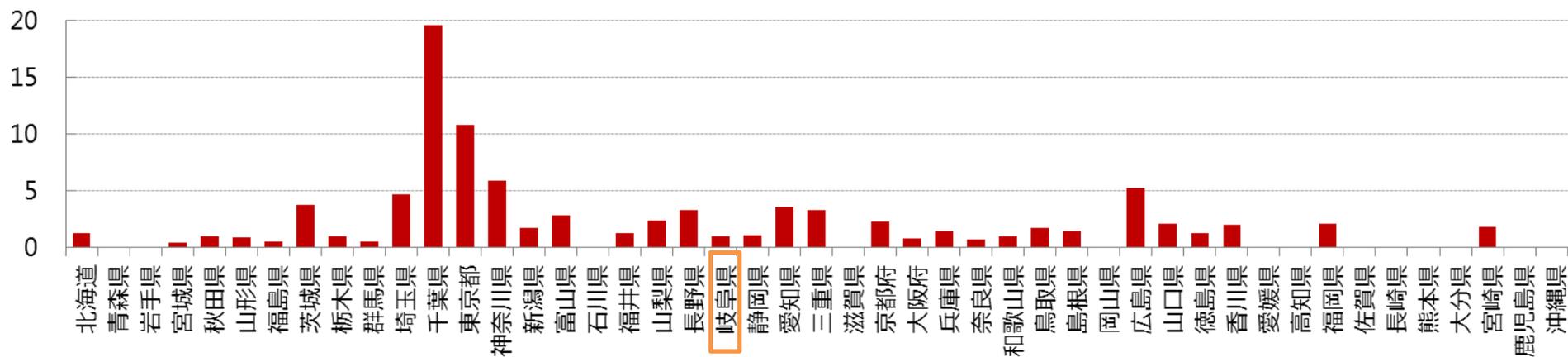


◆ 都道府県別 人口100万人あたり風しん患者報告数

2012～2013年



2018年1～36週

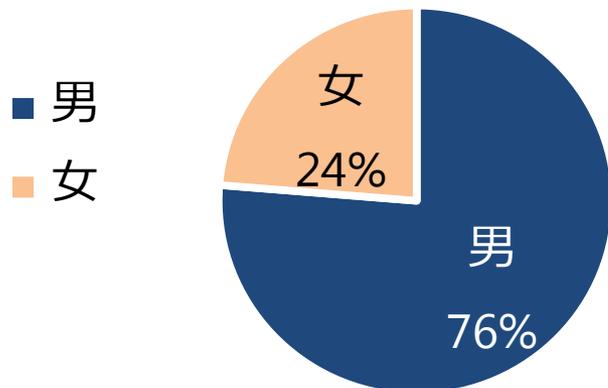


◆ 風しん患者の性別

全国

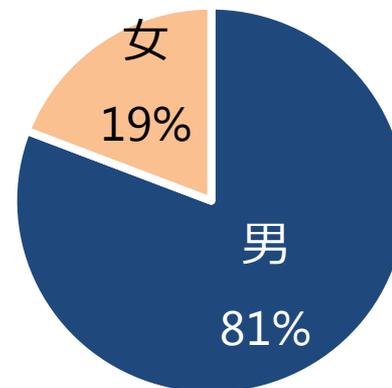
2012～2013年

n=16,730



2018年1～36週

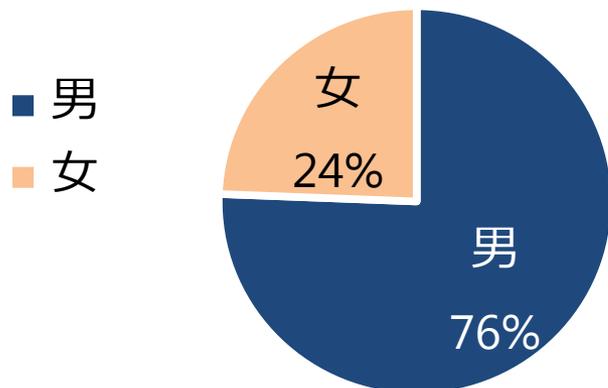
n=496



岐阜県

2012～2013年

n=41



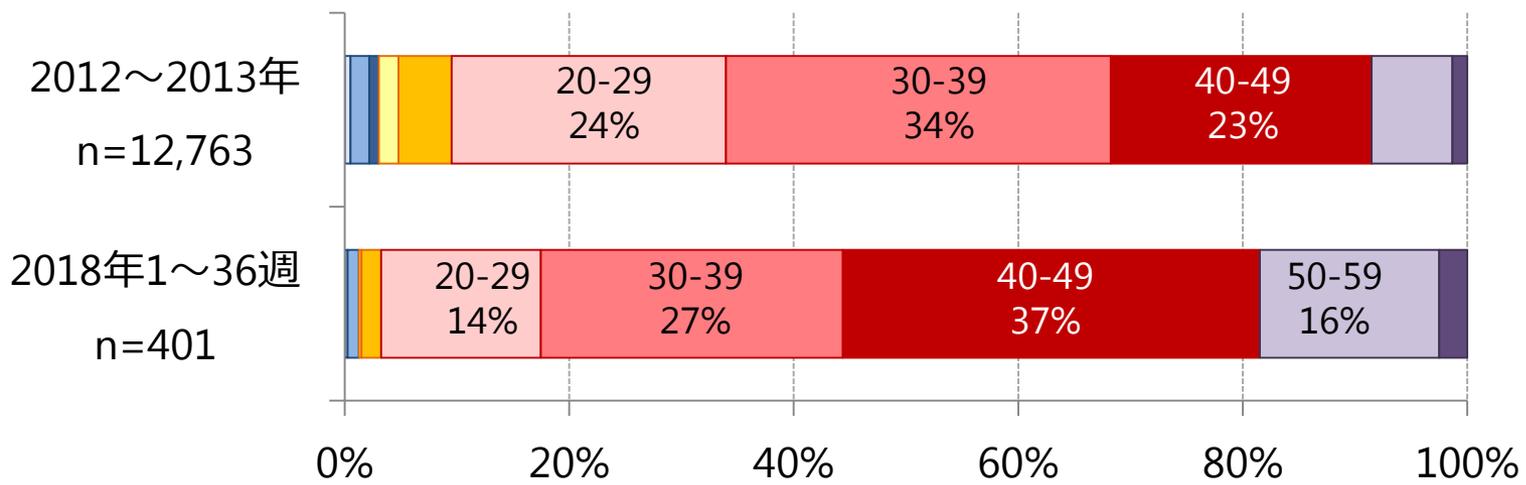
2018年1～36週

n=2



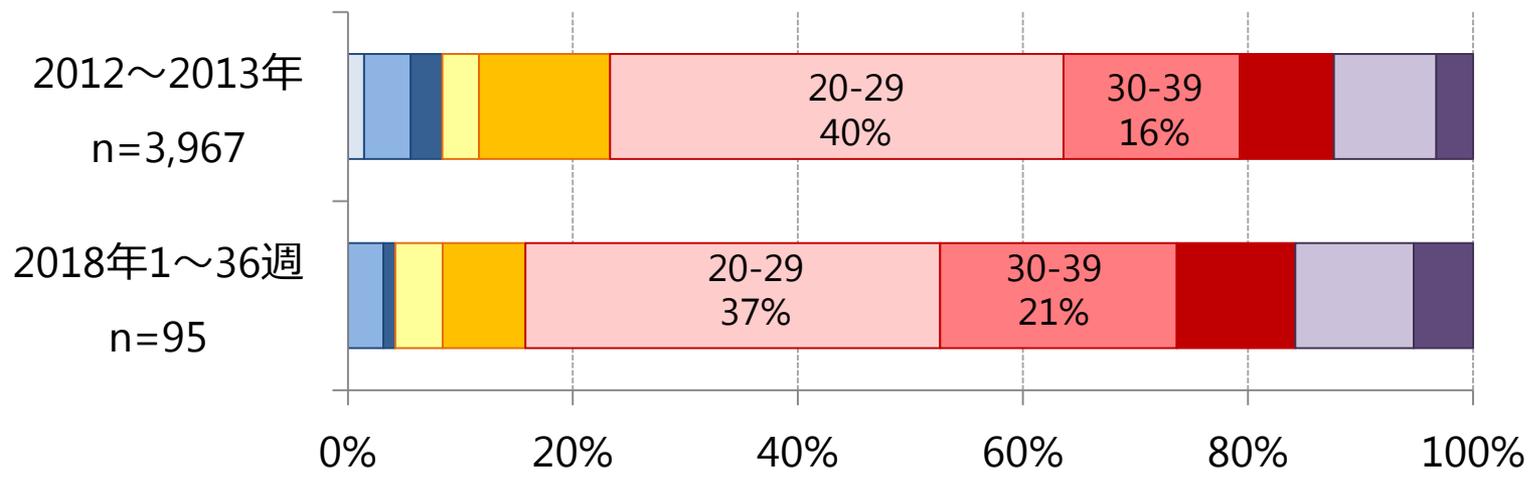
◆ 風しん患者 年齢群別内訳 (全国)

男



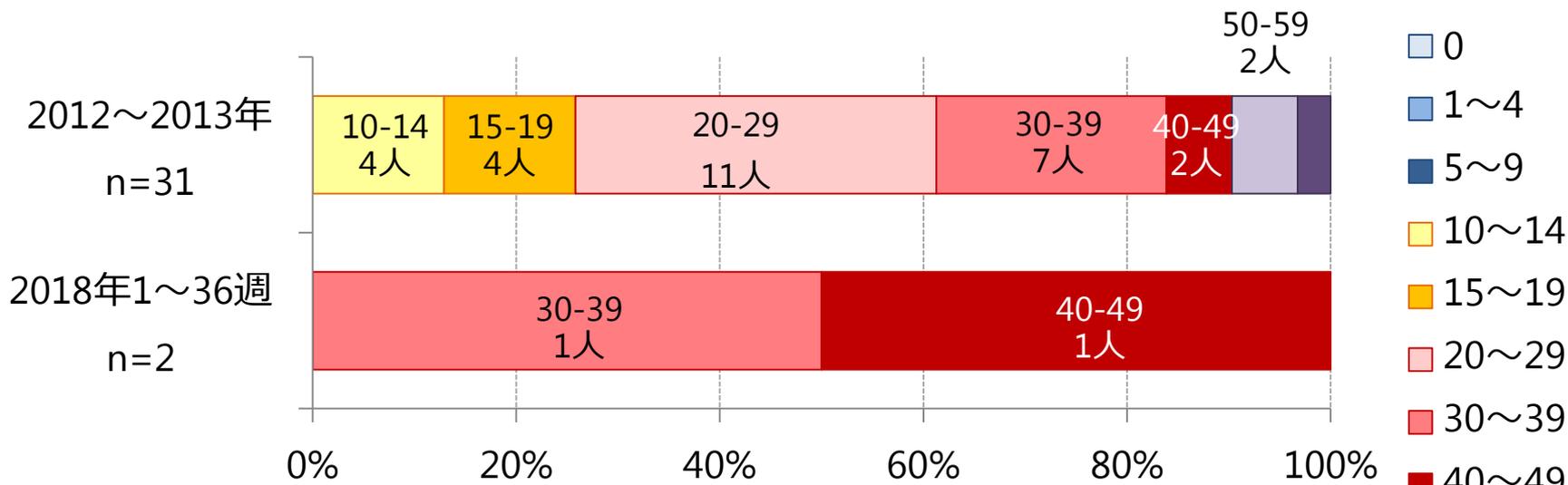
- 0
- 1~4
- 5~9
- 10~14
- 15~19
- 20~29
- 30~39
- 40~49
- 50~59
- 60~

女

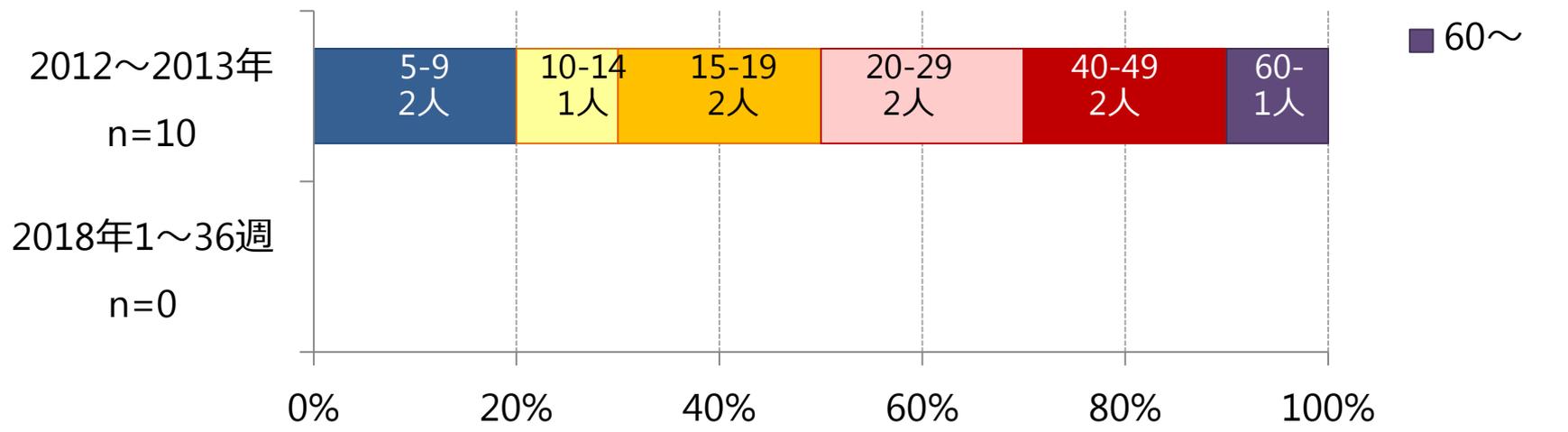


◆ 風しん患者 年齢群別内訳 (岐阜県)

男



女



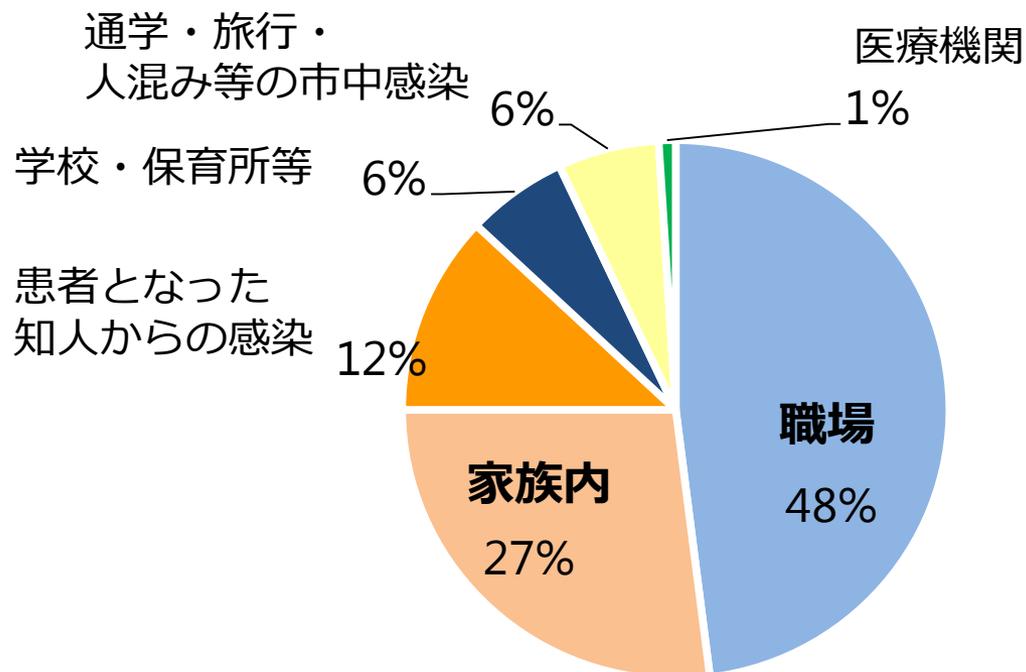
- 0
- 1~4
- 5~9
- 10~14
- 15~19
- 20~29
- 30~39
- 40~49
- 50~59
- 60~

◆ 風しん患者の感染機会 (2012-2013年・全国)

不明または記載なし ...80%

記載あり ...20%

記載内容から感染機会が推定された報告の内訳



- 2011年以降、事業所での集団発生事例が多数報告されるようになっている。

北海道内の事業所で発生した風疹の集団感染事例（IASR 2011年9月号）

<https://idsc.niid.go.jp/iasr/32/379/pr3794.html>

新潟県内のA事業所で起きた風疹感染（IASR 2011年9月号）

<https://idsc.niid.go.jp/iasr/32/379/pr3782.html>

外国系労働者の多い事業所における風疹の集団感染事例 – 前橋市（IASR 2013年4月号）

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2250-related-articles/related-articles-398/3442-dj3988.html>

鹿児島県川薩保健所管内における風しんの流行状況および対策（IASR 2014年1月号）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-iasrd/4263-kj4074.html>

静岡県内のA事業所を中心に発生した風しんの集団感染事例（IASR 2015年7月号）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2315-related-articles/related-articles-425/5777-dj4256.html>

埼玉県内における外国人職業技能集合講習を発端とした風疹広域感染事例（IASR 2017年9月号）

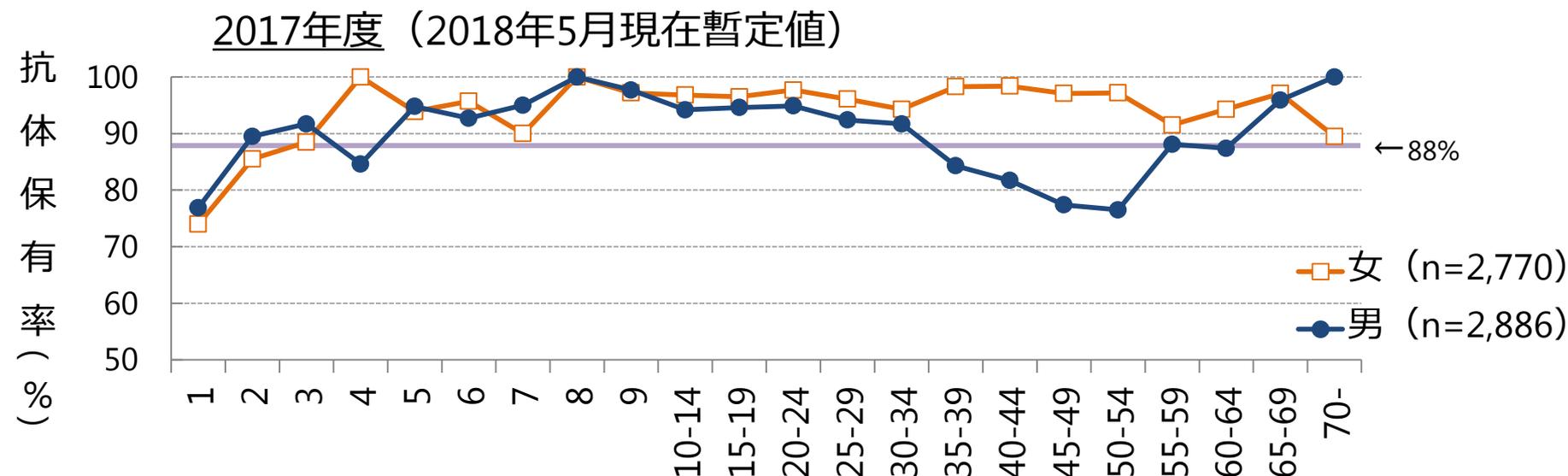
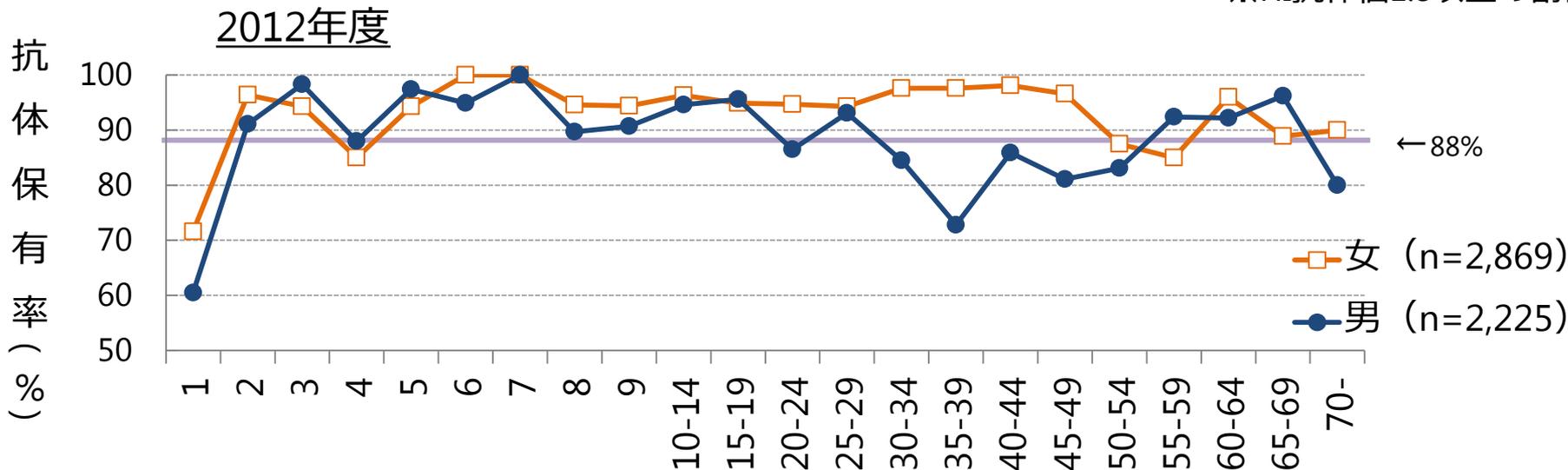
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/1035-idsc/iasr-in/7533-451d01.html>

※上記報告事例において、患者のほとんどが成人男性

- 2018年、東京都では2件の企業内集団感染あり。
(2018年9月14日現在、東京都感染症情報センターHPより)

◆ 抗体保有状況 <感染症流行予測調査より>

※HI抗体価1:8以上の割合



風しんの基本再生産数 (5~8) ※から算出される感染阻止に必要な集団免疫率は80~88%。
 ※IASR 2013年8月号より

◆ 先天性風しん症候群（CRS） 2012～2014年：45例

CRS児の特徴

● 診断時の症状（重複あり）

三主徴：難聴 30例（67%）、先天性心疾患 26例（58%）、白内障 7例（16%）

（診断時に三主徴すべてを認めた症例は3例（7%））

三主徴以外：血小板減少症 33例（73%）、紫斑 21例（47%）、
頭蓋内石灰化 18例（40%）、肝腫大 14例（31%）、
脾腫大 12例（27%）、肝機能障害 10例（22%）など

● 転帰（調査時点）

生存34例（76%）、死亡11例（24%）（うち10例が6か月までに死亡）

CRS児の母親の特徴

● 出産時年齢：中央値25歳（範囲15-42歳）

● 妊娠中の風しん様症状の出現：31例（69%）

● 症状出現時の妊娠週数：中央値9週（範囲3-18週）

● 妊娠前のワクチン接種歴： 2回：0例、 1回： 11例（24%）、 なし：15例（33%）、不明：19例（42%）

風疹および先天性風しん症候群の発生に関するリスクアセスメント第三版 (2018年1月24日 国立感染症研究所)

現状と課題（抜粋）

- 国内では今後も風しんの感受性者が多く残る成人の年齢層で流行を認める可能性があり、職場での集団感染の発生や妊娠を希望する女性や妊婦の感染、CRSの発生等のリスクは依然として高いといえる。定期接種対象者の接種率を高く維持することに加え、この年齢層の感受性者対策が重要である。

対策（抜粋）

- CRSの予防には、今後妊娠する可能性のある女性で、風しんウイルスに対する免疫を十分に持たない女性に対し、妊娠前に小児期を含めて2回のワクチンを接種することが最も重要である。

風しん対策に係る省令等の改正（2018年1月1日）

1. 風しんの届出（省令の改正）

- ・風しんを診断した医師の届出について、
「診断後7日以内」から「診断後直ちに」に変更

2. 風しん発生時の迅速な対応（予防指針の改正）

- ・感染経路の把握等の調査を行う状況を
「風しん患者が同一施設で集団発生した場合等」から
「風しん患者が一例でも発生した場合」に変更

3. ウイルス遺伝子検査の実施（予防指針の改正）

- ・患者発生時の地方衛生研究所におけるウイルス遺伝子検査等について
「可能な限り実施」から「原則として全例実施」に変更

4. 届出票の変更（省令及び通知の改正）

- ・届出項目に氏名、住所、妊娠の有無を追加等